

ウィキペディア

旧岩崎邸庭園

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



この記事には参考文献や外部リンクの一覧が含まれていますが、**脚注による参照が不十分であるため、情報源が依然不明確です**。適切な位置に脚注を追加して、記事の**信頼性向上**にご協力ください。(2017年6月)

旧岩崎邸庭園（きゅういwasakiていていえん）は、東京都台東区池之端一丁目にある都立庭園である。三菱財閥岩崎家の茅町本邸だった建物とその庭園を公園として整備したもので、園内の歴史的建造物は、国の**重要文化財**に指定されている。

目次

概要

沿革

太平洋戦争以降

旧岩崎家住宅

文化財指定

洋館

和館

撞球室

庭園

アクセス

見学の注意点

脚注

参考文献

関連項目

外部リンク

概要

旧岩崎邸の敷地は、不忍池の南西方、台東区池之端一丁目（旧下谷区茅町）に位置し、文京区湯島と境を接している。「旧岩崎邸庭園」として公開されているのは旧邸宅敷地の一部にすぎず、かつての敷地は、西側の湯島合同庁舎、南側の湯島四郵便局や切通公園一带を含んでいた。

- 所在地：東京都台東区池之端一丁目3番45号
- 主な施設：洋館、撞球室、和館、庭園、売店等
- 主な植物：サクラ、イチヨウ、もみじ、モッコク、シュロ、ヒマラヤスギ
- 開園年月日：2001年（平成13年）10月1日
- 開園面積：16,912.88m²

沿革

旧岩崎邸の敷地は、江戸時代には越後高田藩榊原家（現在の新潟県上越市高田）の中屋敷であった。湯島の敷地は桐野利秋の大邸宅を払い下げられたものである^[1]。明治時代初期に牧野弼成（旧舞鶴藩主）邸となり、1878年（明治11年）に三菱財閥初代の岩崎弥太郎が牧野弼成から邸地を購入したものである。現存する洋館、大広間（かつての和館の一部）などは、岩崎財閥

旧岩崎邸庭園
Kyu-Iwasaki-tei Gardens



旧岩崎家住宅 洋館



Wikimedia | © OpenStreetMap

分類	都立庭園・重要文化財
所在地	東京都台東区池之端一丁目
座標	北緯35度42分35秒 東経139度46分4秒
面積	16,912.88m ²
開園	2001年10月1日
運営者	東京都公園協会 2011～2015年度指定管理者
設備・遊具	旧岩崎家住宅（洋館、撞球室、和館）
告示	2001年10月1日開園
事務所	旧岩崎邸庭園サービスセンター
事務所所在地	東京都台東区池之端1-3-45
公式サイト	旧岩崎邸庭園 (https://www.tokyo-park.or.jp/teien/contents/index035.html)

3代の岩崎久弥によってジョサイア・コンドルの設計で建てられ、1896年（明治29年）に竣工したものである。1923年（大正12年）の関東大震災の際には、屋敷地が避難所として地元住民に開放された。

太平洋戦争以降

- 1945年（昭和20年）：GHQが接收、諜報機関「キャノン機関」本部となる（岩崎家は和館の一部に居住）
- 1947年（昭和22年）：財産税の物納として国有財産化
- 1948年（昭和23年）：岩崎久弥一家、富里へ転居。末廣農場敷地内の旧岩崎家末廣別邸へ。
- 1951年（昭和26年）：米 キャノン機関、左翼作家鹿地亘を拉致し、ここに監禁する。（鹿地事件）^[2]
- 1953年（昭和28年）：日本政府に返還
- 1961年（昭和36年）：洋館および撞球室を重要文化財に指定
- 1969年（昭和44年）：和館大広間を重要文化財に指定。司法研修所庁舎建設のために和館の大部分を撤去。湯島ハイタウン、池之端文化センター等の建設により敷地が約1/3となる
- 1994年（平成 6年）：司法研修所の移転に伴い、文化庁に移管
- 2001年（平成13年）：東京都に移管、都立公園として開園
- 2003年（平成15年）：洋館内部の改修（金唐革紙等の復元製作）が完了、通年公開を開始
- ・ 2019年（令和元年）：第1回「旧岩崎邸庭園フラワーショー2019」の開催(5月10日～13日)

旧岩崎家住宅

文化財指定

洋館、大広間、撞球室の3棟ならびに宅地が「旧岩崎家住宅」として国の重要文化財に指定されている。また、洋館北面袖壁、煉瓦塼、実測図1枚が重要文化財の附（つかけり）として指定されている。このうち洋館と撞球室は1961年の指定で、1969年に大広間と洋館北面袖壁が、1999年に宅地、煉瓦塼、実測図が、それぞれ追加指定されている。

土地建物の所有者は国（文部科学省）であるが、管理は東京都によって行われている。文化財保護法第32条の2の規定に基づき、東京都が重要文化財の管理団体に指定されている。

洋館

1896年（明治29年）に竣工し、岩崎家の迎賓館として用いられた西洋館である。木造2階建、屋根はスレート葺き、外壁は下見板張りとする。お雇い外国人として来日し、独立後は三菱・岩崎家の仕事を数多く手がけたジョサイア・コンドルの設計である。

北面を正面とし、正面玄関部分は平面四角形の塔屋となっている。反対側の南面は1階、2階とも列柱のある大きなベランダを設ける。晩年の作品に比べると装飾性が強く、内外装とも全体のスタイルや装飾は英国17世紀のジャコビアン様式を基調としつつ、南面のベランダにはコンドルが得意としたコロニアル様式がよく表れている。一方、客室の天井装飾、床のタイル、暖炉などの細部にはイスラム風のデザインを施すなど様々な様式を織り交ぜている。岩崎久弥の留学先であったペンシルベニアのカントリー・ハウスのイメージも取り込まれている。なお、東側のサンルームは後年（1910年頃）の増築である。内部は階段ホールを中心に、1階には岩崎久弥が用いた書斎、客室、大食堂などがあり、2階には内向きの客室や集会室などがある。建設当時は多くの部屋や廊下の壁面に金唐革紙が貼られていたが、現在当時の壁紙は失われている。平成の修復に際して、2階の2部屋だけ金唐革紙が復元されている^[3]。

- 設計 - ジョサイア・コンドル
- 竣工 - 1896年（明治29年）
- 構造 - 木造2階建、煉瓦造地下室付、玄関部塔屋付、スレート葺
- 建築面積 - 531.5m²

なお、1915年（大正4年）にコンドルが作成した建替計画図が静嘉堂文庫に収蔵されている。鉄筋コンクリート造3階建・建坪348坪の大規模な洋館に立て替え、和洋併置をやめて家族の居室も洋館内に完結する計画であったが実施には至らなかった^[4]。



洋館（南側）



洋館（東側）

和館

洋館と同時期に竣工した、書院造を基調とした和風建築である。明治期の大邸宅では、洋館と和館を並べ建て、和館を日常生活空間、洋館を公的な接客空間として使い分けるが多かった。岩崎邸においても、迎賓館としての洋館に対し、生活の場としては和館が使用された。洋館と和館は船底天井の渡り廊下で結ばれ、当時の和洋折衷の生活スタイルを伝えている。村松貞次郎によると、完存していれば和館部分のほうが、洋館部分より文化財としての価値が高かったと、解体後に気がついたと言う。

設計は大工棟梁の大河喜十郎と伝えられている。長大で良質な木材がふんだんに用いられている。釘隠しなど各所に岩崎家の家紋である三階菱の意匠が見られる。1969年（昭和44年）に「大広間」の名称で重要文化財に指定されたが、同時期に和館の大部分が取り壊された。往時は550坪に達する大邸宅であったが、現存するのは大広間、次の間、三の間の3室と、茶室（待合室）、渡り廊下、便所のみである。

- 設計 - 大河喜十郎（推定）
- 竣工 - 1896年（明治29年）
- 構造 - 木造、棧瓦及び銅板葺、廊下、茶室、便所付属
- 建築面積 - 319.6m²

撞球室

木造ゴシック様式のビリヤード室。校倉造の外観はスイスの山小屋風。洋館と同じくジョサイア・コンドルの設計である。洋館の地下室とは地下通路で結ばれている。内壁には明治期の金唐革紙がはられている。外観のみ公開。

- 設計 - ジョサイア・コンドル
- 竣工 - 1896年（明治29年）頃
- 構造 - 木造1階建、スレート葺
- 建築面積 - 138.0m²

庭園

大名庭園の形式を一部踏襲する庭は、本邸建築に際して池を埋め立てて広大な芝庭とし、庭石・灯籠・築山などを配した和洋併置式の庭園として改修された。現在の庭園は国有化以降の用地転用・売却により大幅に削り取られているが、今も残る雪見灯籠や亭跡の石敷が往時の姿を偲ばせている。

アクセス

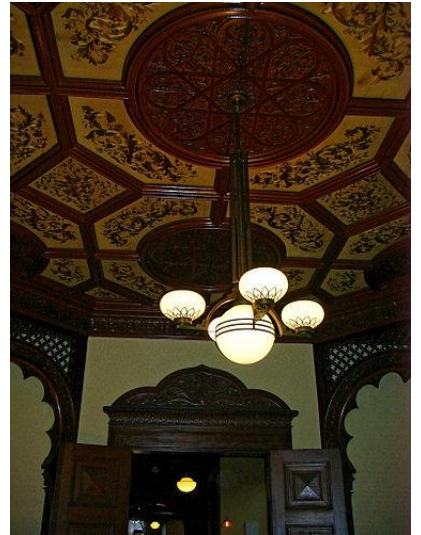
- 東京地下鉄千代田線 湯島駅（C13出口） 徒歩3分
- 東京地下鉄銀座線 上野広小路駅（G15出口） 徒歩10分
- 都営地下鉄大江戸線 上野御徒町駅（E09出口） 徒歩10分
- JR山手線 御徒町駅 徒歩15分

見学の注意点

建物内部での撮影は禁止されている（以前は自由に撮影可能だったが、2010年の大河ドラマ龍馬伝のロケ地となった後は、不定期の撮影許可日を除き不可となっている）。

脚注

- ↑ 【帝国ホテルの創設者 大倉喜八郎】 閉口するほど広大な屋敷を手に入れ、7000坪の丘に別荘を13棟も建てた (http://gendai.ismedia.jp/articles/-/43655)福田和也、現代ビジネス、講談社、2015.6.19
- ↑ 松本清張「日本の黒い霧」新潮文庫
- ↑ 上田尚（金唐紙研究所代表、国選定保存技術保持者）の企画のもと、実質的製作は日本画家の後藤仁らにより行われた。後藤仁『正伝 金唐革紙の製作について』2012年1月、金唐革紙保存会



洋館1階婦人客室 天井はシルクのベルシヤ刺繍、コーナーにはイスラム風のアーチがある



洋館2階ベランダ



撞球室

4. ^ 国立科学博物館産業技術史資料情報センター (<http://sts.kahaku.go.jp/>) 産業技術史資料データベース 資料番号 102210261591 『岩崎家茅町（久弥邸）建替計画案』

参考文献

- 藤森照信、増田彰久『歴史遺産日本の洋館 第1巻 明治編1』講談社、2002年。ISBN 4-06-261481-2。
- 村松貞次郎「日本近代建築の歴史」日本放送出版教会/岩波書店
- 後藤治・三船康道/監修、歴史・文化のまちづくり研究会/編『東京の近代建築』 地人書館、2000年（平成12年）。ISBN 4-8052-0672-1。
- 「旧岩崎邸庭園」パンフレット、財団法人東京都公園協会、2003年（平成15年）。
- 松本清張「日本の黒い霧」新潮文庫。

関連項目

- [岩崎家](#)
- [殿ヶ谷戸庭園](#) - 旧岩崎家別邸
- [清澄庭園](#) - 旧関宿藩主久世家下屋敷跡。岩崎家深川別邸跡
- [六義園](#) - 旧川越藩（のち甲府藩、大和郡山藩）主柳沢家下屋敷跡。岩崎家駒込別邸跡
- [国際文化会館](#) - 岩崎家烏居坂別邸跡
- [開東閣](#) - 旧岩崎弥之助家高輪本邸・非公開
- [鹿地事件](#)
- [無縁坂](#)
- [金唐革紙](#)
- [後藤仁](#)

外部リンク

- [旧岩崎邸庭園（都立公園・庭園案内 - 東京都建設局公園緑地部）](https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/kouen/kouenannai/park/kyu_iwasaki.html) (https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/kouen/kouenannai/park/kyu_iwasaki.html)
- [旧岩崎邸庭園（東京都公園協会 | 公園へ行こう!）](http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index035.html) (<http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index035.html>)
- [旧岩崎邸庭園（東京都公園協会 | 庭園へ行こう。）](https://www.tokyo-park.or.jp/teien/contents/index035.html) (<https://www.tokyo-park.or.jp/teien/contents/index035.html>)
- [三菱人物伝-岩崎久彌物語-茅町本邸物語](http://www.mitsubishi.com/j/history/series/hisaya/hisaya07.html) (<http://www.mitsubishi.com/j/history/series/hisaya/hisaya07.html>)
- ウィキメディア・コモンズには、**旧岩崎邸庭園** (https://commons.wikimedia.org/wiki/Category:Old_Iwasaki_House,_Tokyo?uselang=ja)に関するカテゴリがあります。

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=旧岩崎邸庭園&oldid=76465119>」から取得

最終更新 2020年3月5日 (木) 05:46（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストは[クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス](#)の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。